

令和4年度 第4回社会教育委員会議中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和5年2月5日（日）15時から16時30分まで
- 【会 場】 中原市民館視聴覚室
- 【出席者】 鈴木部会長、菊地副部会長、梶川委員、中道委員、但野委員、滝沢委員、木村委員
日吉委員
- 【欠席者】 なし
- 【事務局】 石川館長、船津係長、小栗係長
- 【傍聴人】 0人

専門部会の委員8人全員が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

1 開会

2 資料確認

資料 令和4年度第3回社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）

3 議事

- (1) 令和5年度 市民自主学級、市民自主企画事業の選考 ※非公開
- (2) 令和4年度第3回専門部会の議事録（案）について
- (3) 令和4・5年度の調査審議について
- (4) その他

4 閉会

<会議録・質疑応答>

1 開会

事務局（船津係長）

2 資料確認

事務局（船津係長）

3 議事

(1) 令和5年度 市民自主学級、市民自主企画事業の選考 ※非公開

(2) 令和4年度第3回専門部会の議事録（案）について

事務局（小栗係長） 資料について説明（了承を得た）

(3) 令和4・5年度の調査審議について

鈴木部会長 今年度最後の専門部会なので、調査審議のテーマを決めたいと思う。どのようなテーマがふさわしいか、皆さまから意見をお願いしたい。

事務局（小栗係長） 補足になるが、前回の議事録を御確認いただくと、菊地副部会長からは「生きがいつくりを見つけられる市民館」というあたりで仮のテーマとして置いてみたらどうか。また木村委員からは「これからの市民館に期待するもの」が良いのではないかなどの意見をいただいている。

鈴木部会長 テーマが決まったら、前回同様にイベントを実施するのか。

事務局（小栗係長） 様々な進め方がある。前回の議事録にもあるが、何かしら課題があつて、それを解決するための提言をしている幸市民館と麻生市民館の例や、課題への対応策を実施した結果について、一連の流れを伝えて提言するという高津市民館のような例もあり、前回の例に特にこだわる必要は無いが、現在はまだテーマが決まっていない状況なので、まずはテーマが決まれば良いと思っている。

滝沢委員 前回の議事録には、委員からの意見として、「生きがいつくりを考える」「市民同士のつながりを考える」「敷居が低い市民館」「地域のつながりを考える」「市民館の役割を考える」「子どもの貧困を考える」などがあると記録されており、こちらも参考になるのではないか。

鈴木部会長 大きな視点で見ると、例えば、子どもの虐待など、中原区のお父さんやお母さんに提言できること、貧困、不登校なども課題としてあるのではないか。

滝沢委員 方向性だけでも決められると良いと思う。

木村委員 前回の会議終了後に委員同士で話をしたのだが、今すぐではなく、10年後やそれ以降を見据え、区民の夢や希望を育てるような市民館になっていくことが大切ではないか。

滝沢委員 市民館の役割を考えるということだろうか。

木村委員 堅苦しい感じではなく、敷居を低くして、「ふらっと立ち寄れる市民館」などでも良いのではないか。

鈴木部会長 先日の「教育を語るつどい」でも、横浜市都筑区から来た御夫婦が受付の近くにいらっしゃって、ふらっと参加してもらったことがある。

日吉委員 もしこれがテーマになるとしたら、ふらっとにFLATの意味を持たせること

もできるのではないか。それが、どんな世代にもつながるのではないか。そういうふらっとな場所になると良いのかと思う。

梶川委員　もしそうなったとしたら、ふらっと立ち寄れる場所も必要になると思う。以前はラウンジに飲食スペースがあったので、それが良かった。指定管理者制度に移行したら、そのようなこともできるのだろうか。

事務局（石川館長）　今でもラウンジは飲食可で開放している。

梶川委員　でも、お茶とかは自分で持ってくる必要があるのですよね。

事務局（石川館長）　お茶は自分で買ってください。

事務局（小栗係長）　以前は、社会福祉法人が「いくおう」という名称で就労支援を兼ねて、ラウンジで飲み物や軽食提供などの運営をしていた。「いくおう」は撤退したが、館長が言われたとおり、ラウンジの開放はされている。

梶川委員　誰でも立ち寄れるというイメージには合っているのではないかと思った。

但野委員　活動センターは登録団体しか使えないという規定があるので、ふらっとは立ち寄れない。市民館への期待は大きいとは思う。それが実現して、大人も子どもも楽しく立ち寄れる場になると良いと思う。

日吉委員　ふらっとイベントとして、誰でも参加できるイベントを企画しても良いのではないか。

梶川委員　毎日だと、他の利用者の妨げになってしまう可能性があるので、イベントなら良いのでは。

滝沢委員　良いテーマではないだろうか。

木村委員　それを市民館の事業でもやって欲しい。私たちも手伝うが、生涯学習交流集会をふらっとフェスティバルにするなど、テーマ性を持ったものにして欲しい。

梶川委員　デジタルのことを教えて貰えるワークショップなどがあると嬉しい。

木村委員　全館で無くても、いくつかの部屋やコーナーなどの一部スペースだけでも良い。子どもや子どもと関わりたい高齢者も居るので。

日吉委員　そういう人たちが一緒に入っても良いし、見ているだけでも良い。

梶川委員　男性でも、そのような機会に来れば、良い機会になるのでは。

木村委員　文化協会の先生方に御協力いただいて、男性でも興味が持てる機会が設けられると良いと思う。

滝沢委員　数年前にそのような企画を実施した覚えがある。

事務局（小栗係長）　確かに、数年前に中原市民館の移転10周年の記念事業として、全館貸し切りで、「かわさき家庭と地域の日」にPTAや各種団体の協力で、イベントを実施したことがあるが、他にも様々な手法が考えられると思う。事務局としてお話を伺っている限り、今回の調査審議のテーマは「ふらっと立ち寄れる市民館」で良いのではないかと思うが、いかがか。

事務局（船津係長）　補足させていただくと、「ふらっと立ち寄る」と「まちに飛び出す」は、「市民館のあり方」の中でも重要な概念として議論されているところだが、ふらっと寄れるというアイデアは、なかなか出てこない。会議室を貸すという空間

づくりが設計されている中で、ふらっと寄れる構造には無いのではないかという気がしている。ただし、貸館の一部を変更したり、ある空間を別の用途で用いるなどなど、いろいろなアイデアはあると思っている。そのような本質的なアイデアを委員の皆さまからいただければ、市民館は本当にふらっと立ち寄れる場所になると思う。もしかしたら、何かしら毎日イベントが行われていて、ふらっと来た人が参加できるものが何かあるという状態が、ふらっと寄れる市民館の最終的な姿なのかも知れない。それを提示するには、皆さんのアイデアが必要。それを提示していただければ、非常に大きな一歩を踏み出すことができると思うので、テーマとして賛成である。

木村委員 以前、高津市民館の専門部会で「ふらっと縁日」というテーマで実施したことがあるので、言葉が少し気になるところもあるが。

日吉委員 ラウンジの一部を囲碁やLINE講習など、いつでも立ち寄れるスペースにするなどのアイデアもあるのではないか。ギャラリーが開いている週に開催する方法なども考えられる。小さくても、できる事を積み重ねる方法もあると思う。

但野委員 貸館という性質が大きな規制になっていると思うので、ふらっと立ち寄れるという意味では、1階部分を上手く活用できると、市民館に馴染んでもらえて、配架しているチラシなども見てもらいやすいのではないか。

事務局（船津係長） 麻生市民館に在籍していた際に、体育室を1日開放デーにして、卓球台を置いて、その時間帯は誰でも利用できるという試みをしたことがある。そのような試みを行政が実施する方法もあると思うし、活動している方が、その部屋を借りた上で、開放的に何か行うという手法もある。これだけ多くの方に市民館を利用していただいているということは、それだけ潜在的な開放要素はあるのではないかと思う。イベントや共用部を利用する手法もあるが、それよりも市民館利用者が使っているスペースの方が圧倒的に多いので、意識を変えていただけるような方法を模索する、例えば、フラダンス教室の主催者に参加をオープンにしてもらうとともに、行政はそれを広報などで協力する手法もアイデアとしてはあると思う。その意味で、市民館をふらっとにする要素は多くあると思う。自由な発想でアイデアをいただけたらと思う。

木村委員 今おっしゃったようなことは菅生分館で既に実施している。1～3月をそのような期間として、各サークルに協力を募り、分館だよりで広報をしている。このようなことが日常的に行われれば、ふらっと立ち寄れる市民館になると思う。

日吉委員 先日ギャラリーで押し花を展示していた団体が、これで最後かしらなどと言っていた。展示するだけで目一杯。例えば、展示の応援を中学生や高校生が手伝うなども考えられるのではないか。

事務局（小栗係長） まとめになるが、今回の調査審議のテーマは、「(仮) ふらっと立ち寄れる市民館」で差し支えないか。

(一同賛同)

中道委員 先ほどの話からすると、私たちのサークルは常にオープンで、いつでも受け付

けますというのをSNSなどでも発信している。近くだったら行きたいというコメントをいただくこともあるが、必ずしもこの地域の方に届くとは限らず、難しいところなので、広報の面で市民館の協力をお願いしたい。中原市民館で実施しているオープンキャンパスでは、市民館だよりで広報していただいたので、10人程度の来場者があった。私たちのサークルが市民館を利用可能になった場合などでも、何らかの広報があると有難い。

木村委員 市民館の入り口で分かるようにすると良いのでは。

事務局（船津係長） 市民館の利用者同士で交流する手法もあるのでは。

木村委員 サークルのCMを作成する方法もあるのでは。

（４）その他

事務局（小栗係長） 次回の日程についてお伝えしたい。次回は次年度になるが、日程については、4月以降、調整を進める予定である。

事務局（船津係長） 年度をまたぐことに伴い、委員の改選が生じる場合がある。もし委員の交代が生じる場合は、手続きが必要になるので、そのような際は、御一報いただきたい。

4 閉会